

# 山口孝徳の 熱狂脳内

トレーニングルーム

第12回

## 山仕様のコロッサス

KIMORIのコロッサス山バージョン。  
構想から約2ヵ月で完成した



れるやり甲斐のあるレースじゃないか、っと思いつき、もしもコロッサスでエントリーしたらエキサイティングだろうなあと考えたのです。

ちょうどその頃、コロッサスの動画を撮影していて、山仕様のコロッサスってアリじゃないか→もともとオフロードを走るためのコンセプトが原点なんだから→それならつくってもらおう！

っと思いついたら矢継ぎ早。コロッサスの産みの親、木森社長を説得するために口八丁手八丁。山も走れるコロッサスの実現に向かって走り始めました。

改めて感じたのは、メイドインジャパンは臨機応変な対応に粘り強く応えてくれるということ。しかも、ハンドメイドは、製造工程で自在に対応できるので仕事が早い。つくりながら改良してるので、完成度が高くかっこいい！

ちょうど15年前、僕はダウンヒルバイクを設計し、ぶっつけ本番に近いテストライドを行い、レースを目指した経験があります。

完成したばかりのバイクにドキドキしながら走り、わくわくしながら走り始め、ウキウキしながら新しい感覚を楽しんでいたあの頃の記憶が蘇りました。

もはや日本製の自転車に乗ることはない、とすら思っていた僕は、またまた幸運に巡り会うことになったのです。

来季のシクロクロスデビューをも視野に入れるグラベル仕様のコロッサスは、ぶっつけ本番で産声を上げることになりました。

以前から出場してみたかったレースについて出場することになりました。そのレースとはキングオブクロスカントリー王滝100km MTBレースです。

毎年、MTBシリーズ選手権と重なっていたので出場する機会がなかったのですが、新しく加入したチームメイトに誘われたり、参加者の様子を聞くなどをしていくうちに、興味が湧いてきて出場することにしました。一番そそられたのは一輪車のMTBで走っている選手がいたという話です。

コースのコンディションがものすごい！と聞いていたので、MTB以外で走れないと思いついていました。26インチと29インチ、フルサスとリジット、どちらが有利なのだろうか……、そんな「一般常識」にとらわれている中、一輪車で100kmに挑戦するという感覚に衝撃を覚えたのです！

ただ、制限時間があるから、1対1のギヤ比によるトップスピードでの完走は難しいだろうから、一輪車の選択は厳しいと思います。しかし、それ以外なら何だって走れるのではないかと、ライダーのポテンシャルを試さ



### Profile

#### ●山口孝徳

プロクロスカントリー選手。2001年、日本人初の全日本、アジア、シリーズ総合、ナショナルポイントチャンピオンの4冠に輝く。ド視性で数々のタイトルを獲得した後は、自然の法則を利用して、最大限のパフォーマンスを追求する活動へシフトする。オリジナルブランドのPro Rideを設立し、サイクルショップRide Designを立ち上げる。公式ホームページ= <http://www.specg.com/>